

4) 太子の井戸跡

袖之木町（現在の富田町5丁目11）には「太子に井」がありました。高槻市内に清福寺町（清福寺太子堂あり）があり、大工さんが多く住んだところです。聖徳太子が大工さんの祖と呼ばれ信仰されています。

その大使が富田に来て井を見つけられたとか、弘法大使が諸国を回られた時に見つけられたとか諸説があります。

なぜ井と呼ぶかといえば、堀り井戸でないからです。いわゆる湧き水だからです。越前大野の御清水のようなものであったと言います。規模は違いますが参考にして下さい。

こんこんと湧き出る水を、飲み水・炊事用・野菜洗い・洗濯などに分けて使用している。

近所の石井銘醸さん（今はありませんが）この水を主に洗米や樽洗い等に使っていたそうです。

昭和30年代前半に国道171号線の工場が、工業用水として大量に汲み上げたため、この地区の井戸が枯れ「太子の井」の枯渇し、今ではアスファルトの下に埋もれてしまった。

富田では、多くの家で井戸をもち、一つの井戸が枯れると次の井戸を掘り、家によっては2,3ヶ所も井戸を持っています。

VG 槻輪が、平成21年9月 わがまち紹介活動で「老舗料亭きんなべ」さんを訪問・見学させて頂いた時も、3つの井戸を活用されているとの事でした。

※[VG 槻輪 富田の老舗料亭「きんなべ」]で検索下さい。

富田町3丁目の家庭でも多くの井戸がありました。が、「太子の井」と同じで井戸が枯れました。

今後、発生が予想される大震災の対策として、ライフラインの断絶により一番困るのは水で、とりわけトイレの水の確保です。

今後、異常時の事を考えると、井戸の活用は、見直されるべきです。



越前大野の御清水



老舗料亭「きんなべ」さんの
中庭の井戸